

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

「月日の経つのは……」

慈光照護のもと、門信徒の皆さまにはますますご清祥にてお念仏ご相続のことと慶賀に存じあげます。

8月には本願寺新報『お盆特集号』を配布させていただきました。皆さまいかがでしたでしょうか。その後、ご門徒ではないけれども月参りをさせていただいているNさまがお盆に寺に来てくださったって、「新聞を読んで、浄土真宗のお盆のことがたいへんよくわかりとても良かった。息子の嫁さんにも読んでもらった。」と言ってくれました。私は、「ああ、新聞を配布させていただいて良かったなあ」とたいへんうれしく思いました。皆さまも感想やご意見などありましたら、いつでも聞かせてくださいね。

それにしても、月日の経つのは本当に速いです。光陰矢の如し、矢ですものね！そりや速いですわ。ついこの間永代経が終わったと思つたのにもう報恩講です。今年の春彼岸に来てくださった鯖江の称名寺の佐々木

報恩講にお参りください。10月

16日(月) 昼二時・夜七時 17日(火) 朝十時

先生のお父様(前任職)はよく「ああ、今年も報恩講をお迎えできてうれしい」とおつ

しやいます。私はもうまったくそんな気持ちになれず、「ああ、また報恩講をお勤めしなければ……あれもこれもせなあかん」になつてしまつています。本当にもつたないこととで、これまでの人生、お仏飯でお育ていただいたことを忘れたトンデモ発言です。これからは少しでも「報恩講をお迎えさせていただく」という気持ちで取り組みたいと思います。しかし、こんなに月日の経つのが速いと、残りの人生もあつという間に終えてしまひそうです。残りの人生というとき皆さまは燃えている蠟燭を思い出されませんか？あと何cmとか。でもいくら残りがあつてもみえても、突然どこからか風が吹いてきて消えてしまうことがあるんですよ。そう、『無常の風』です。明日もある、来年もあるというのは私の思い込みで、本当は今日ともしらざる明日ともしらざる日々のいのちに感謝して生きないといけないのでしょね。私



にはとてもできそうにありません。お通夜やお納骨には蓮如聖人の『白骨の御文章』を

神妙な顔をしてお勤めさせていただいておりますが、その実なんにもわかっちゃいないのがこの私でありました。「我や先、人や先」と聞かせていただきますが、頭の中では「人や先、人や先」と自分のいのちが終わつていくことは考えておりません。今年はずで二人の同級生が亡くなつています。またつい先月、鯖江のお寺の坊守さまが急逝なさいました。56歳で私と同じ歳です。こんなことが続いても、「次は私かな」とは思えないところに、深い無明の闇があるのでしょね。

親鸞聖人は、門弟に出されたお手紙の中に、「浄土にてかならずかならずまぢまらにせ候ふべし」と書かれておられます。出会いがあれば必ず別れがあるこの娑婆世界ではなく、また会える、そしてもう決して別れること、空しく過ぎて行くことのない、阿弥陀如来の浄土という世界をいただいていることを共々に喜びながら、今年も報恩講をお迎えさせていただきたいものです。

「報恩講が厳修されます」

日	10時〜	14時〜	19時〜
16日 (月)		大逮夜 報恩講作法 法話二席	初夜 初夜礼讃 御伝鈔拝読 法話一席
17日 (火)	ご満座 阿弥陀経作法 法話一席		

福井市教應寺住職

ご法話 本願寺布教使

奥田 順誓師です。

今年は何年かぶりに夜のお座のお勤めを初夜礼讃に戻そうと思つています。ここ数年お勤めしてきた十二礼と比較すると相当に長い時間がかかりますが、礼讃のお勤めは天台声明を基にした美しい旋律が特徴で、お勤めは難しいですが素晴らしいと思えます。住職のだみ声で恐縮ですが、ぜひお参りしていただければと思います。また、今年も本願寺から報恩講のリーフレットを送っていただきました。報恩講について、ご家庭でお勤めいただき報恩講についてもわかりやすく書かれています。ぜひご一読いただきますようお願いいたします。今年も住職が作る『炊き込みご飯』のお齋をお出しするつもりです。でも失敗したらごめんなきい(汗)。

「ご家庭での報恩講について」

ご門徒のみなさまの封筒には、『報恩講(秋回り)のご案内』という文書を同封させていただきますました。ご希望の日時を何らかの方法でお知らせください。遠くのご門徒さまにはいつも失礼しておりますが、三国のお寺でも東京(のご門徒さまのお家)まで報恩講に行く!というご住職もいらつしやいます。私も呼ばればできる限り参ります。でも、本当は現地のお寺をご紹介してそのご門徒になっていただくのがよいのだと思えます。私も知り合いのお坊さんも各地におりますので、もしそのようなご希望があれば遠慮なくご相談ください。もうそういう時代かなと思います。

「ブログ開設一周年!」

インターネットに西光寺のブログを作ってから早くも一年経ちました。どうにかこうにか毎月更新することができています。寺報には書けないくだらないことや恥ずかしいことを赤裸々に(笑)書いておりますので、どうぞご覧いただき、できれば読者になつてください。コメントやいいね!をいただけると喜びます。読者のなりかたがわからない場合は、設定に参ります。どうぞ若い世代の方にも宣伝してください。『西光寺で最高時!』で検索してくださいね。

「念仏者の生きかた」

前号でもお知らせしましたが、阪北組として第六期となる連研が先月スタートしました。私もスタッフとして参加しておりますが、生きていく中で疑問を持ち、それを話し合うということの難しさに直面しています。

国際社会も混乱し、国内政治も混迷を極め、何が正しいのか、誰に投票したらいいのか、なにを依りどころにして生きていけばいいのか……みんなが悩んでいるような気がしてなりません。特に子供たちにとっては、大人つてなんなのか?信頼できる大人はいらぬのか?と疑問に思うことばかりではないかと思えます。情報過多の時代、若木のようにすくすくと伸びることが難しいのかもしれない。

私たち南無阿弥陀仏のお念仏をいただく者は、できない中にも少しでも仏さまの御心にかなう生き方を目指し、すつたもんだしながらも努力させていたたく姿を、子供たちにも見せたいものですね。合掌

※来寺のお約束や、お参りの変更など、重要なことは必ず住職の携帯にご連絡下さい。出られなければ留守電に入れてください。

住職携帯 090-8667-7602

メール soichiro4989@gmail.com

ブログ 西光寺で最高時!